

気まぐれ通信

平成27年11月18日第60号
発行者 有限会社津口ファーム鶏卵部

鶏 供 養

今年も近所にある法泉坊さまにお越し頂き、従業員一同鶏慰碑の前に集まり鶏供養を行いました。
供養のあと、ご住職様より普段何気なく行っていることやあたりまえのように食べている物も時には、先人たちや生き物のおかげで今があることを、節目節目で思い起こし、感謝の気持ちを持たれることが、大切であるというお話を頂きました。
当日は、雨が降りテントを張ってのお参りでした。

「TPP問題」たまごはどうなるの？

ニュースを見れば必ずTPPのことを報道しており、農畜産家にとっては、大変な時代が来るのではないかと心配しております。農畜産物5品目については、よく報道されておりますが、「たまごはどうか？」ということをお伝えします。

日本は、生食文化が昔からあり、たまごかけごはんやすき焼き食べるなどに生たまごを食べる習慣があり、世界でも生で食する国民は珍しいと言われていています。それだけ日本の卵は、鮮度がよく安心して食べられる生産方法、販売方法をとっていますので、殻付き卵の家庭での消費においては、海外の卵には、勝てる自信を国内生産者は持っているはずで。ところが、加工品となると話は別です。海外から粉卵（卵を急速乾燥させたもの）や凍結液卵（殻を割って卵液を凍結したもの）になって輸入されてくると大きな影響をもたらすことが予想されます。国内でもキューピーたまごさんなどで加工されておりますが、これを外国のものに代わると大きな痛手となります。現在報道されているのが、次のようになっています。

TPP発効時に即時撤廃となるのが、卵白粉（卵白を乾燥させたもの）、凍結卵白があります。（現行8%）

6年目で撤廃となるのが、凍結全卵、卵黄粉、凍結卵黄（現行18.8%～21.3%）

6年据え置きで7年目からスライドで13年目から撤廃となるのが生鮮・殻付き冷蔵卵、全卵粉（現行17%）

TPP導入により国内の生産量の17%が減ると予想されております。国内での生産量が約250万トン/年としたら42万トン/年が余るかたちとなり、卵価も相当影響してきます。

生食文化を後世まで残していくために鮮度重視の生産と消費啓蒙が我々の使命とも思えます。

【編集後記】

今年も1か月と少しになりました。年齢とともに一年が早く感じる思いが致します。誰かが言っていました、一年の長さは一定ですが、満1歳の子は、その長さの1倍、2歳の子は2分の1、3歳の子は3分の1の長さを感じる。年を取るに従い、一年の長さが短くなると言っていました。だから、例えば50歳の人は、1歳の子に比べたら1年は50分の1の長さを感じるもんだということでした。私は、〇〇歳だから・・・小学生の時と比べたら・・・なるほどね！

Jリーグも大詰め！サンフレッチェ広島の年間1位も間近！CSも日本一・・・かな！がんばれ！広島！

